

第2章 水俣市の文化財の概要

1 指定等文化財の概要

本市にある文化財のうち、高い価値が認められる文化財は、国・県・市によって指定若しくは登録されています。その件数は、令和6年（2024）4月現在で、34件です。

指定等の主体別で見ると、国の指定を受けた文化財はなく、国の登録を受けた有形文化財1件があります。県の指定を受けたものは3件、市の指定を受けたものは30件あります。

類型別では、有形文化財16件、記念物10件、民俗文化財8件です。文化財の保存技術の選定はありません。

表8 水俣市の指定文化財一覧（令和6年4月1日現在）

類 型			国		県	市	合計
			指定・選定	登録	指定	指定	
有形文化財	建造物		0	1	0	1	2
	美術工芸品	絵画	0	0	0	1	1
		彫刻	0	0	0	7	7
		工芸品	0	0	0	1	1
		書跡・典籍	0	0	0	5	5
		古文書	0	0	0	0	0
		考古資料	0	0	0	0	0
		歴史資料	0	0	0	0	0
無形文化財			0	0	0	0	0
民俗文化財	有形の民俗文化財		0	0	0	0	0
	無形の民俗文化財		0	0	0	8	8
記念物	遺跡		0	0	2	3	5
	名勝地		0	0	0	0	0
	動物・植物・地質鉱物		0	0	1	4	5
文化的景観			0	0	-	-	0
伝統的建造物群			0	0	-	-	0
合 計			0	1	3	30	34

表9 指定・登録文化財一覧(市・県・国)(令和6年4月1日現在)

市指定文化財(30件)

指定番号	指定区分	名称	指定年月日	所在地
第1号	史跡	水俣城址	昭和40年6月10日	古城
第2号	史跡	南福寺貝塚	昭和47年10月24日	南福寺
第3号	史跡	石飛遺跡	昭和47年10月24日	石坂川
第5号	有形文化財	薩摩部屋	昭和47年10月24日	浜町源光寺
第6号	有形文化財	西念寺寺号許可書	昭和47年10月24日	平町西念寺
第7号	有形文化財	後奈良院宸筆百人一首	昭和47年10月24日	浜町源光寺
第8号	有形文化財	親鸞聖人直筆	昭和47年10月24日	浜町源光寺
第9号	有形文化財	加藤清正公木像	昭和47年10月24日	陣内加藤神社
第10号	有形文化財	加藤清正公霊牌	昭和47年10月24日	陣内加藤神社
第11号	有形文化財	豊太閤紋入鏡	昭和47年10月24日	陣内加藤神社
第12号	無形の民俗文化財	久木野棒おどり	昭和47年10月24日	久木野寒川地区
第13号	無形の民俗文化財	久木野俵おどり	昭和47年10月24日	久木野
第14号	無形の民俗文化財	湯出棒おどり	昭和47年10月24日	湯出
第15号	無形の民俗文化財	頭石臼太鼓おどり	昭和47年10月24日	湯出頭石地区
第16号	無形の民俗文化財	袋棒おどり	昭和47年10月24日	袋
第17号	天然記念物	無田湿原(保護地区)	昭和48年6月24日	越小場無田
第18号	無形の民俗文化財	宝川内臼太鼓踊り	昭和53年2月25日	宝川内
第19号	有形文化財	仏涅槃図	昭和56年6月23日	平町西念寺
第20号	有形文化財	誕生釈迦仏	昭和56年6月23日	平町西念寺
第21号	有形文化財	釈迦如来坐像	昭和56年6月23日	平町西念寺
第22号	有形文化財	西念寺開山当時の古文書	昭和56年6月23日	平町西念寺
第23号	天然記念物	キイセンニンソウ	昭和57年2月23日	袋
第24号	有形文化財	木造菩薩形立像	昭和60年1月25日	平町西念寺
第25号	有形文化財	木造菩薩形立像	昭和60年1月25日	平町西念寺
第26号	有形文化財	木造十一面観音菩薩立像	昭和60年1月25日	中小場観音堂
第27号	有形文化財	木造聖観音菩薩立像	昭和60年1月25日	中小場観音堂
第28号	無形の民俗文化財	招川内古代虚無僧踊り	平成6年3月25日	招川内
第29号	無形の民俗文化財	宝川内志賀段七踊り	平成6年3月25日	宝川内
第30号	天然記念物	茂川のヤマナシ	平成20年4月18日	茂川
第31号	天然記念物	荒神社のムクノキ	平成29年3月24日	大園荒神社

県指定文化財(3件)

—	史跡	陣内官軍墓地	昭和52年10月11日	古城
—	史跡	徳富蘇峰・蘆花生家	平成9年10月20日	浜町
—	天然記念物	薄原神社のナギ	昭和53年2月2日	薄原

国登録文化財(1件)

43-0005	建造物	水俣市立蘇峰記念館	平成9年11月5日	陣内
---------	-----	-----------	-----------	----

(1) 有形文化財

1) 建造物

建造物は、徳富蘇峰の寄付を基に、昭和4年(1929)に当時の水俣町の図書館「きすい淇水文庫」として開館し、その後蘇峰の業績を紹介する施設となった「水俣市立蘇峰記念館」が、初期のコンクリート建築の好例として、国の登録有形文化財となっています。天井部分など随所に装飾が施された美しい内観です。



写真20 薩摩部屋

また、源光寺には「薩摩部屋」があり、市の指定となっています。江戸時代、浄土真宗が禁制であった薩摩いずみの出水・大口いさ(現伊佐市)方面の浄土真宗の信者たちが、役人の目を逃れ、本市の寺を訪れていました。源光寺は、本堂仏壇裏に地下式の秘密部屋いわゆる薩摩部屋を設け、これらの隠れ信者たちを受け入れていました。

2) 美術工芸品

美術工芸品は、主に室町時代からの仏教美術に関わる彫刻、絵画があります。これらのうち、西念寺の「誕生釈迦たんじょうしやかぶつ仏」(明時代)、「釈迦如来坐像しやかによらいざぞう」(清時代)、「木造菩薩形立像もくぞうぼさつぎようりゆうぞう」(2体・南北朝時代)は、南北朝時代に懷良親王が建立した東福寺から預けられたものと伝わっています。東福寺は、古城の陳内阿蘇神社の近隣にあったと伝わりますが、文化13年(1816)の熊本藩土池辺長十郎らの測量隊による薩摩往還測量の「分度記」(永青文庫蔵)によると、この頃既に無人となっています。中小場観音堂(古里)には、室町時代後期の「木造 聖観かん菩薩立像のぼさつりゆうぞう」と、顔面のみ鎌倉時代の「木造十一面観音菩薩立像もくぞうじゅういちめんかんののぼさつりゆうぞう」があります。

「加藤清正公木像」「加藤清正公霊牌」「豊太閤紋入り鏡」は、加藤神社(陣内)にあります。御神体となっている木像と鏡は、比較的新しい時代のものと言われています。加藤神社は水俣城代中村将監が、加藤清正を祀るため、慶長16年(1611)に水俣城内に建立した霊廟と寺が、後に神社になったものです。

絵画は西念寺の「仏涅槃図さいねんじ」があり、縦191.6cm、横144.8cmのもので、熊本藩絵師矢野派である緒方安清、吉田吉久の作です。

書跡は、源光寺の「親鸞聖人直筆名号」、西念寺の「西念寺寺号許可書」、同寺号許可書に付随した「西念寺開山当時の古文書」があります。「後奈良院宸筆百人一首」は、西本願寺から源光寺に贈られたものと伝わっています。「加藤清正公霊牌」は水俣城代中村将監の直筆と言われています。

(2) 民俗文化財

・無形の民俗文化財

「袋棒おどり」は、本市が島津氏の領有下にあった時代、島津氏りゅうぞうじが肥前の龍造寺攻めのため袋湾から出航する際に、その士気を鼓舞するために踊られたのが始まりと言われています。短い島



写真21 袋棒おどり

津氏の領有時代をしのぶ数少ないエピソードでもあります。この踊りは本市に伝わる棒踊りを代表するものとして、「水俣棒踊り」とも呼ばれています。湯出方面では、「湯出棒おどり」「招川内古代虚無僧踊り」「頭石臼太鼓おどり」が市の無形の民俗文化財に指定されています。ほかに「久木野棒おどり」「久木野俵おどり」「宝川内臼太鼓踊り」「宝川内志賀段七踊り」が市の無形の民俗文化財に指定されています。

(3) 記念物

1) 遺跡

西南戦争の官軍の戦死者の墓地である「陣内官軍墓地」が、県の史跡に指定されています。西南戦争では、本市でも山間地を中心に激しい戦いが繰り広げられました。官軍墓地は、明治27年(1894)に整備された、伊佐・山野方面での官軍の戦死者の墓です。墓碑には、被葬者の氏名のほか、所属、出身地、亡くなった場所と日付が刻まれており、史料価値も評価されています。

「徳富蘇峰・蘆花生家」は、敷地内に土蔵造の5棟の建造物があり、県の史跡に指定されています。3棟が徳富家時代のもの、2棟は徳富家が水俣を離れた後に土地と建物を所有した西村家時代のものです。平成2年(1990)から3年を費やし、これらの建物の復元整備を行い、一般に公開しています。生家主屋は建築年代のわかる町家としては、県内で最古という学術的に価値が高いものです。5代目久貞(太多七)が寛政2年(1790)に建築、木造一部二階建、寄棟造、棧瓦葺で通り庭があり、典型的な町家です。生家蔵は7代美信(太善次)が文化8年(1811)に建築したもので、木造二階建、切妻造、棧瓦葺です。はなれは各部の仕様から江戸時代のものと考えられます。衣屋主屋は、明治中頃の建築で、木造二階建、入母屋造、棧瓦葺です。衣屋蔵は、明治29年(1896)の建築で、木造二階建、切妻造、棧瓦葺です。

市の指定史跡には、「石飛遺跡」「南福寺貝塚」「水俣城址」があります。石飛遺跡は、市街地から東南12km、標高500m、鹿児島県との県境にあります。昭和30年代に本市の郷土史家斎藤俊三が発見し、昭和43年(1968)、発掘調査が行われました。旧石器時代の石器が、時代を経て変化していくことがわかる状態で出土し、同時期に調査が行われた鹿児島県出水市の上場遺跡とともに、九州の旧石器時代研究の先駆的な事例として、考古学界でも知られています。

南福寺貝塚は、縄文時代中期から後期にかけての貝塚です。当時の海岸線が内陸部まで入り込んでいたことがわかります。ここで出土した土器から、縄文時代後期の南福寺式土器が設定されました。

水俣城址は、中世から近世にわたる城跡です。東西に長い城域を持ち、西端が市の史跡に指定されています。現在は城山公園として親しまれています。近年の確認調査で、石垣が城の中心部まで配置され、かつ複雑な塁線を形成した防御性の高い城であったことが判明しています。

2) 動物・植物・地質鉱物

「薄原神社のナギ」が県の天然記念物に指定されています。県下最大のナギの巨木として貴重で、全国的に見ても屈指のものです。このほか巨樹として、「茂川のヤマナシ」「荒神神社のムクノキ」が市の天然記念物に指定されています。茂川のヤマナシは幹周り

2.5m、高さ 16m ある県内でも一、二を争う大木です。和ナシの野生種で、4 月に白い花を咲かせ、夏から秋にかけて実がなります。荒神神社のムクノキは、幹周り 4.3m、高さ 19 m で大園町の荒神神社の御神木です。ムクノキの枝にはそれぞれ地獄・極楽などの名前が付けられており、地域の人々に親しまれています。

越小場無田にある「無田湿原」は、市の天然記念物に指定されています。温暖帯で標高が低く谷間にある低山帯谷湿原です。湿原は一般の植物の生育にとっては、強い酸性土壌に加え、貧栄養、貧酸素といった過酷な環境条件が揃い、それに耐えた植物にとっては、生存競争も少なく安住の場所になります。長い進化の過程で湿原特有の植物が現れ、無田湿原にはこのような種が数多く存在しています。中でもタカサゴサギソウ、ヒメミクリ、ヒナノカンザシ、ミミカキグサ、カキラン、ヤマドリゼンマイ、チョウセンスイランなどは希少な種類です。無田湿原は県が県自然環境保全条例に基づき、自然環境を保全することが特に必要な地域等について指定する、自然環境保全地域にも指定されています。面積は 1.42ha です。

「キイセンニンソウ」は、市の天然記念物に指定されています。和歌山県田辺市と本市の袋及びその周辺にしか自生しない植物で、袋のグリーンスポーツみなまた内にあります。



写真 22 薄原神社のナギ



写真 23 無田湿原

2 未指定文化財の概要

令和6年（2024）8月現在、1,347件の未指定文化財を把握しています。第4章で述べる市史や調査報告書、地域資源マップ、市民アンケートなどから未指定の文化財を抽出した結果が表10です。なお、未指定文化財の区分や種別については、今後の調査などの結果を踏まえて変わる可能性があります。また、追跡調査が及んでいない分野もあり、件数も変動する可能性があります。

市内に所在する未指定文化財は、文化財の6類型のうち建造物が多くを占めます。次いで、有形の民俗文化財、美術工芸品、記念物のうち遺跡、動物・植物・地質鉱物と続きます。

表10 未指定文化財一覧（令和6年8月現在）

類 型			件数
有形文化財	建造物		480
	美術工芸品	絵画	2
		彫刻	116
		工芸品	11
		書跡・典籍	0
		古文書	27
		考古資料	0
		歴史資料	0
無形文化財			1
民俗文化財	有形の民俗文化財		267
	無形の民俗文化財		4
記念物	遺跡		16
	名勝地		20
	動物・植物・地質鉱物		100
文化的景観			7
埋蔵文化財包蔵地			91
その他地域資源			205
合 計			1,347

（1）有形文化財

1）建造物

・建物

神社や祠が数多くあり、「青井神社」や「龍王神社」など、相良氏さがらに関連するものもあります。神社の規模は様々ですが、規模が大きいものは、「浜八幡宮」「陳内阿蘇神社じんない」「長野諏訪神社」「袋天満宮」「住吉神社」などがあります。



写真24 浜八幡宮

・橋梁

本市には石橋があり、主に薩摩街道に架橋されています。ただし、大雨で完全に流出したものや、わずかな痕跡だけが残るものもあり、現在、完全な形で残る石橋は8基です。境橋は、明治16年（1883）架橋で、当時整備された国道に架かるものでした。そのほか市内の橋はいずれも年代がわかっていませんが、江戸時代のものと考えられます。なお宝川内から東側に石橋は確認されていません。



写真 25 境橋

表 11 現存する石橋

名称	所在地	年代・概要
さかいぼし 境 橋	袋神川	明治 16 年（1883）架橋。長さ 13.50 m、幅 4.95 m。
ひやすじ 冷水の石橋	袋冷水	建築年代不明。長さ 6.80 m、幅 3.40 m。
さかくち 坂口の石橋	坂口	平成 2 年、河川工事のため移設・復元した。長さ 5.30 m、幅 2.70 m。
しんまち 新町の石橋	陣内	文政 8 年（1825）頃に架橋されたと思われる。長さ 4.00 m、幅 3.00 m。
くまんさこ 隈迫の石橋	初野	建築年代不明。長さ 3.70 m、幅 2.85 m。
もとむらがわ 元村川の石橋	大迫	嘉永年間の建造と言われているが、詳細は不明。
うえはら 上原（前田） の石橋	小津奈木 字前田	江戸時代末期の架橋とされている。前田の石橋とも言う。 長さ 10.00 m、幅 4.00 m。
まえだ 前田（瀬戸） の石橋	小津奈木 字前田	江戸時代末期の架橋とされている。長さ 9.75 m、幅 3.50 m。津奈木町との境界に位置し、同町では町指定文化財「瀬戸眼鏡橋」。

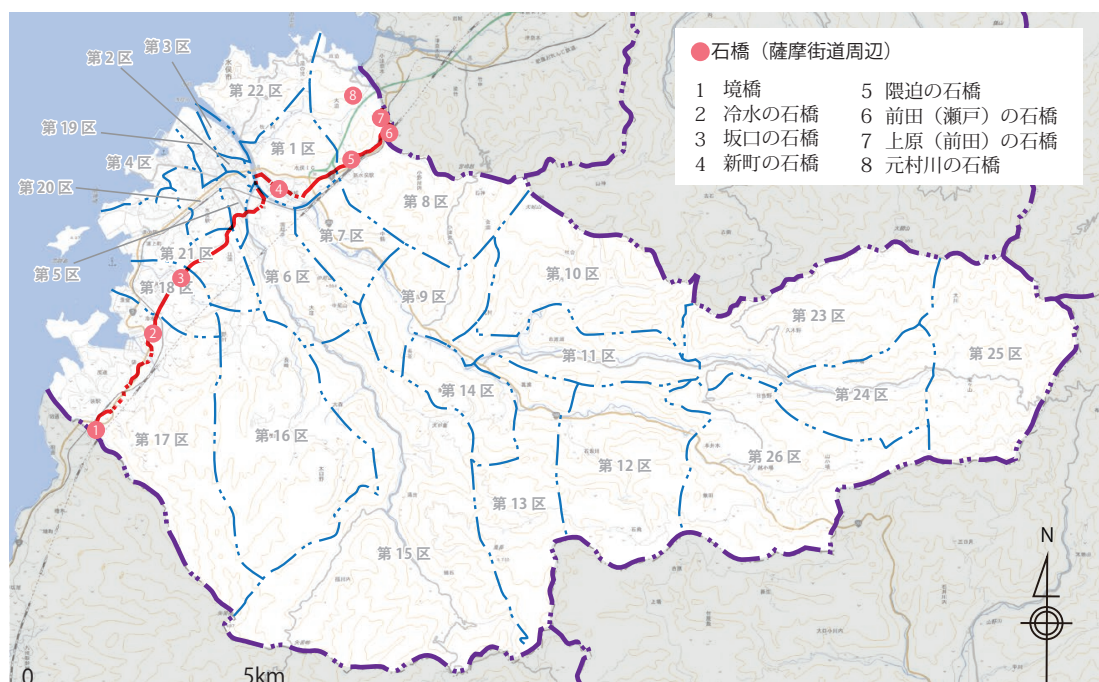


図 19 石橋分布図

そのほかの橋梁では、大正 14 年（1925）架設の「久木野川橋」があり、オープンアーチ構造の RC 橋※¹です。熊本県の施工で、当時は国内でもオープンアーチ橋の実績数が未だ少なく、その技術の先駆性が指摘されています※²。ほかに大正時代から昭和初期に架設された橋は、「境川橋梁」「前田川橋梁」「水俣川橋梁」があります。

・石碑

市内には石碑が多く建立されています。種類別では、「井堰記念碑」など道路・水路・耕地の整備に関連するものが多くあり、これらの工事に不断の努力が必要であったことを反映しています。

石碑には本市出身である徳富蘇峰・蘆花に関連するものもあり、蘇峰の「蘇翁筆塚」、「蘇峰曾遊之地碑」など、特に蘇峰に関連する石碑が市内各地に建立されています。「公德碑」は、薩摩街道脇に建てられていますが、これは街道を行く人々のために、地元の人が転がっている石を片付けていた、という逸話に基づき、当時の人々の心遣いを受け継いでいくために、蘇峰の提唱により建立されたものです。

・その他土木構造物

本市では、河川から田畑に水を送るための水路や堰（「せき頭首工」と呼ぶ）といった農業用施設が江戸時代から構築されてきました。久木野には大正時代に作られた石積みの「岩下の堰」があります。このほか頭首工は、様々な形のものが存在しています。

越小場の日当野には、窯業所で瓦を焼成するために使用されていた「だるま窯」が遺されています。構築年代は戦後であり新しい物件ですが、「だるま窯」は全国的に現存数が少なく、貴重な事例となっています。

また、神社の境内には土俵や、棧敷席が造ら



写真 26 井堰記念碑



写真 27 蘇峰曾遊之地碑



写真 28 日当野瓦工場の窯と煙突

1 上部構造の主要部材に鉄筋が入ったコンクリートを用いた橋。

2 平成 11 年熊本県教育委員会「熊本県文化財調査報告 第 182 集 熊本県の近代化遺産—近代化遺産総合調査報告—」。

れているものがあります。

2) 美術工芸品

・絵画

絵画は、神社に奉納された絵馬、昭和10年(1935)頃に描かれた吉田初三郎の「水俣鳥観図」、明治6年(1873)、杉谷雪樵^{せつしょう}作「義士生害之図」(水俣市立蘇峰記念館蔵)、主に河川改修前の河口部の情景を描いた「水俣十二景」があります。



写真 29 袋天満宮の棧敷席

・彫刻、工芸品

彫刻は、地域のお堂や祠に祀られたものが中心です。古い年代の仏像では、南福寺観音堂(南福寺)に、^{なんふくちやう}南北朝時代にあったと伝わる南福寺に由来すると言われる仏像2体があります。室町時代中期から後期の「木造地藏菩薩坐像」、室町時代末期の「木造聖観音菩薩立像」です。

袋の時堂には、室町時代末期の「木造阿弥陀如来坐像」「木造如来形立像」のほか、「板碑」もあります。板碑は銘のある石造物のうち、本市最古の延徳元年(1489)のもので、地藏菩薩^{ぼんじ}を示す梵字と地藏像の線刻があり、現世と来世の安らかな生活を願うものです。

また、板碑を納めた堂の隣には、銅鏡が「鏡様」として祀られています。石坂川^{かまえ}の構にある箱崎神社には、懸仏^{かけぼとけ}と見られる「銅造阿弥陀如来坐像御正躰^{みしょうたい}」があります。

石造の地藏や、馬頭観音も多く見られます。馬頭観音は、往来の多いところで確認されます。海沿いでは恵比寿が祀られています。

・古文書

古文書は、天正15年(1587)に豊臣秀吉が発給した「豊臣秀吉朱印状」があります。秀吉が九州平定に当たり、相良家家臣であった深水宗方^{ふかみそうほう}に水俣・津奈木^{つなぎ}を与えることなどが書かれています。

また、慶長5年(1600)の関ヶ原の戦い時に、東軍の加藤清正が、西軍の島津氏を攻めようと南下していく際、小津奈木村に発した禁制^{きんぜい}「加藤清正禁制」は、戦に当たり村の安全を保証する代わりに、村の協力を取り付けるものです。この時に、小西領であった水俣が事実上、清正の支配下になったことを示します。

「城山家文書^{じやうやまけ}」には、袋の番所で使用された「判鑑^{はんがん}」があります。番所を通過する人々は、身分を表す往来手形の所持が必要でした。この手形には、発行した庄屋、惣庄屋などの姓名・判鑑があるので、番所では発行者の確認を行うために「判鑑」を揃えておく決まりでした。

「薩軍宿泊者名簿」は、明治10年(1877)2月に、薩軍の辺見十郎太率いる部隊が、当時陣内にあった橋本屋に宿泊した記録です。

・歴史資料

西南戦争に関連するものとして、兵士が背負っていた「背囊^{はいのう}」や、「四斤砲弾^{しきんほうだん}」などがあります。

（２）民俗文化財

・有形の民俗文化財

有形の民俗文化財は、山の神、水神、荒神が数多くあります。また、鹿児島に多く分布している田の神像もあることから、鹿児島の文化が伝播していることがわかります。虫を追うために、各地区にあったという「雨乞い太鼓」も伝わっています。8月になると、地区ごとで競うように打ち鳴らしていたそうです。

・食文化

海・山・川があることから、それぞれの地域に根付いた郷土料理や食の文化があります。大根の漬物「寒漬け」は、落葉したハゼノキに干す風景が風物詩ともなっています。安くおいしく、栄養価の高い「ちゃんぽん」は、本市を代表する食となっています。月１回開催される水俣漁師市では、豊富な海の幸が並びます。

（３）記念物

１）遺跡

明治１０年（１８７７）の西南戦争では本市も戦地となっており、山間地に「ごっとな岩」などの激戦地が点在しています。

「薩摩街道」は、市の西部を通過する江戸時代の街道です。全長１２kmあり、現代の道路などによって寸断された範囲もありますが、当時の雰囲気を残す範囲もあり、文化庁の「歴史の道百選」に選定されています。南九州西回り自動車道の建設に関連して行われた発掘調査では、地面を逆台形に切りとおした道が確認されました。ほかに本市には「古代官道」「大口街道」「大隅街道」が通過し、古代官道沿いに駅がありましたが、その位置はまだ明らかになっていません。

「国鉄山野線跡」は、昭和６３年（１９８８）２月に全線廃止となった山野線の線路跡です。現在は、市によりウォーキングやランニングなどに利用できるよう整備され、「日本一長い運動場」として活用されています。

また、江戸時代から水俣の産業として定着していた製塩業に関連する、「百間」^{ひゃっけん}「四十間の塘」^{とも}「大廻の塘」^{うまわり}があります。これらは、塩田を形成するための潮止の堤防です。現在の道路や堤防に取り込まれたり、改修されているため、遺構の残り具合は不明ですが、現在でも地形の高低差が残り、当時の状況が推定できる部分があります。



写真 30 薩摩街道発掘調査風景



写真 31 山野線跡（水俣市発行「さよなら山野線パンフレット」より）

2) 名勝地

鬼岳系火山岩類から成る湯出地区には滝が見られます。「水俣大滝」のほか「のれん滝」「箱滝」などがあり「湯出七滝」と呼ばれています。この地区の特徴である急崖が発達する山腹と、板状節理や柱状節理が相まって独特の風景となっています。

「湯の児海岸」は、半島と小さな入り江が交互に連なるリアス海岸で、山地が海岸に迫る景観となっています。

「亀嶺峠」は、市の南東に位置する標高 568 m の高原です。この範囲は、山頂部がフラットになる性質がある肥薩火山岩類から成るため、平坦な地形が広がる独特な風景となっているほか、西北に天草諸島、東南に霧島連峰から開聞岳、桜島、北東に国見山、大関山、阿蘇外輪山、北西に雲仙の山々が眺望できるポイントでもあります。

3) 動物・植物・地質鉱物

巨樹は市内の広範囲に分布し、特に神社の境内に多く見られます。長野の「諏訪神社の大楠群」は、熊本県が県民が祖先から受け継ぎ、ふるさとの象徴として地域の歴史と伝統を秘めた県内各地の樹木を登録する「ふるさと熊本の樹木」に登録されています。同じく「ふるさと熊本の樹木」に登録されている「侍・小田代台地の櫨」は、江戸時代から続いているハゼ栽培によるもので、本市の特性をよく表しています。これらのハゼノキのうち、「宝暦ハゼ」は、宝暦年間（1751～1764）に植樹されたものと言われています。

袋の「グリーンスポーツみなまた」では、「ヘゴ」や「キイレツチトリモチ」などが生育しています。また、「恋路島」は、50 年間人為的な影響が及ばなかったことで照葉樹林が成長し、貴重な植生を見せています。

「中尾山」や「グリーンスポーツみなまた」、「亀嶺峠」は、熊本県が自然豊かで、自然体験、森林浴、レクリエーションなどの場として適当な森林を指定する「熊本ふるさとの森林」に指定されており、「大川のコジイ林」や、湯出の「大滝のカツラーケヤキ群」、「鬼岳のスタジイクスノキ群」は、特定植物群落です。

地質鉱物として、巨石や柱状節理が見られ、板状節理が発達した場所では市営による採石が行われていました。また、古墳時代には地下式板石積石室（または板石積石棺）墓の石材として使用されました。



写真 32 熊本ふるさとの森林看板

表 12 「ふるさと熊本の樹木」指定樹木リスト

No.	名称	所在地	幹まわり	高さ	その他
1	諏訪神社の大楠群	長野諏訪神社	5m80cm	28m20cm	指定番号 55 号
2	住吉神社の森	越小場日当野住吉神社	-	-	指定番号 138 号
3	日当野住吉神社のコウヨウザン	越小場日当野住吉神社	3m57cm	35m	住吉神社の森
4	日当野住吉神社のイチガイシ	越小場日当野住吉神社	4m56cm	30m	住吉神社の森
5	日当野住吉神社のムクロジ	越小場日当野住吉神社	3m43cm	22m	住吉神社の森
6	日当野住吉神社のオガタマノキ	越小場日当野住吉神社	2m83cm	21m	住吉神社の森
7	日当野住吉神社のイスノキ	越小場日当野住吉神社	2m24cm	10m	住吉神社の森
8	モマの木	石坂川	5m30cm	25m	指定番号 139 号
9	侍・小田代台地の櫨	江添	4m	10m	指定番号 201 号

（４）文化的景観

人工的に作り出した景観では、田地の確保のために、山腹を切り拓いて構築した棚田の景観があります。代表的なものは湯出の「白岩^{しらいわ}の棚田」、久木野の「久木野校区の棚田」です。「久木野校区の棚田」は、農林水産省の「つなぐ棚田遺産」※に選定されています。江戸時代から続くハゼ栽培により植栽された、侍地区のハゼは秋には美しい紅葉風景を作り出しています。



写真 33 白岩の棚田

（５）埋蔵文化財包蔵地

埋蔵文化財包蔵地は、91 件が周知の埋蔵文化財包蔵地として『熊本県遺跡地図』に登録されています。そのうち 3 件は、その範囲の一部が史跡指定を受けています。旧石器時代など年代の古いものは、市の南東部の山間地に分布しますが、縄文時代・弥生時代の遺跡は市域の各所に存在しています。縄文時代の貝塚として、市の指定史跡の南福寺貝塚がありますが、本市には弥生時代にも貝塚が形成されるのが特徴で、「初野^{はつの}貝塚」があります。

古墳時代は、陣内から初野に広がるシラス丘陵上が、墳墓の造営地となっており、南九州特有の「地下式板石積石室（または板石積石棺^{せつかん}）墓」が見られます。古代を主体とする遺跡は未確認です。

中世以降には城が構築されており、「水俣城址」は市の史跡指定を受けていますが、ほかにも「宝川内城址」「久木野城址」などがあり、これらの城で出水や伊佐方面からの侵攻に備えました。いずれも街道の往来を見渡せる要所で、水俣川・久木野川から北側に東西に配置されています。また、水俣城址の北向いの山中には「石切丁場」があり、水俣城址の石垣の石材を切り出していました。

江戸時代は末期に「琉球通宝」を鑄造していたと思われる「銅銭鑄造跡」があります。琉球通宝は薩摩藩が鑄造を許可されたものであることや、地面を掘りくぼめた簡易な作業場であることから、正式な鑄造所でないことは明らかなです。関与した人物や目的は不明ですが、薩摩に近いという地理的条件が反映していると考えられます。

（６）その他地域資源

従来の文化財の類型には当てはまらないものの、本市の歴史文化を示すもので、本計画では「その他地域資源」と定義しています。

1) 旧跡

（１）本市の歴史を示す遺構があったとされているが、著しく原形が損なわれているもの、またはその遺構が完全に消滅し痕跡もないもの、（２）根拠は確認できないが、伝説や由緒がある場所で、本市の歴史の理解の一助になるものを「旧跡」とします。

本市には街道沿いや往来を眺望できる場所に番所があったため、「袋御番所跡」「石坂川

-
- 3 棚田地域の振興に関する取組を積極的に評価し、棚田地域の活性化や棚田の有する多面的な機能に対する理解と協力を得ることを目的として、優良な棚田を認定する取組。

御番所跡」などがあります。このほか「永代橋跡」「独生和尚修行の地」「浜学校跡」などがあります。

また、秀吉の「お上り石」や、戦国時代や江戸初期までの合戦に関連した地と言われる「陣の坂」「肥前陣」などの地名が残る場所も、旧跡に該当します。

2) 湧水

豊かな山林資源から湧出する「湧水」が、9か所あります。袋の「冷水水源」※は、薩摩街道沿いで行き交う人に使われていたことが想像されます。「寒川水源」では、冷たく清廉な水を活かして、そうめん流しが行われ、多くの人が訪れています。「冷水水源」「寒川水源」は、「熊本名水百選」に選出されています。



写真 34 冷水水源

3) 温泉

温泉は、山間部の「湯の鶴温泉」や、海岸部の「湯の児温泉」があり、それぞれ特色のある温泉街を作っています。

4) 農産物

明治時代から、温暖な気候と水はけのいい条件を活かした「柑橘」の栽培が行われました。また、江戸時代から続く「ハゼ」栽培があります。

山間地は、頂上部分が平らになる地形を生かした「茶」の栽培が盛んです。近年では「和紅茶」も知られています。また、「サラダたまねぎ」も多く作られています。

5) アクティビティ

「競り舟大会」は、河川改修前の古賀川で行われており、明治時代に長崎のペーロンを参考に始められたと言われています。現在は水俣川河口で行われています。また河口ではカヌーも行われています。近年では、海でのSUP（スタンドアップパドルボード）も定着するようになってきました。



写真 35 競り舟大会

6) 公園

水俣港をしゅんせつしてできたエコパーク水俣は、58haの広さがあり、花や緑に包まれた公園や海と親しめる親水護岸、ごみや水質問題、地球や自然保護など環境問題について正しく理解するための熊本県環境センターなどがあります。市民が未来に伝えたい地域資源として認識されています。

また、市の中心部から一帯の山々を見渡すことができる「中尾山展望台」、リアス海岸の景観が楽しめる「和田岬公園」などがあります。

4 「冷水水源」は昭和60年（1985）に熊本県が選定した「熊本名水百選」では「冷水泉水」。

